

うめきた 2 期みどりとイノベーション融合拠点形成推進協議会主催
うめきた 2 期未来シンポジウム実施概要

1. 開催日時：平成 29 年 12 月 4 日（月） 13:00～17:00
2. 開催場所：ナレッジキャピタルタワー ナレッジシアター
3. 参加者数：283 名
4. 実施概要：以下のとおり

第 1 部

◆課題提起 大阪商工会議所 会頭 尾崎 裕氏

パネルディスカッションに先立ち、ディスカッションテーマとなる課題を提起。うめきた 2 期のイノベーション創出のテーマであるライフデザインイノベーションは「人々が健康で豊かに生きる」ためのイノベーションを生み出すということ。このテーマは、2025 万博誘致のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」やWHO 憲章にも明記されている「健康とは疾病の有無だけではなく、心身ともに健康であること」に通じるものがある。また、日本の未来成長戦略の中にも同様のトピックが盛り込まれている。関西は医療・ライフサイエンス企業、スポーツ関連企業、食品企業が集積し、またそれらを支えるモノづくり中小企業の基盤があり、研究集積も厚い。この強みを活かし、企業や技術の集積、融合、事業化加速のイノベーションサイクルを推進していく必要がある。その拠点がうめきた 2 期であることが望ましいが、どういった機能や工夫が必要かを海外事例をもとに議論いただきたい。

◆海外事例紹介 1：サイモン・スピア氏 techUK 国際連携担当部長

techUK は、交通、ヘルスケア、環境、エネルギーなど英国がかかえる様々な社会課題を ICT や先進技術を用いて解決していき、そのモデルを海外展開することで外貨を得るツールとする事業を行っている。メンバー企業は 950 社にのぼる。



◆海外事例紹介 2：クリス・コマタス氏 メルボルンヘルスアクセラレーター
プログラムディレクター

ロイヤルメルボルン病院の ICU を改築し、世界でも類を見ない、in-situ インキュベーター施設を開設し、これまでに 30 社以上のベンチャー企業がプログラムに参加。医療現場のニーズに対するソリューションをビジネスに変えていく医商工連携の取り組み。



◆海外事例紹介 3：ジョナサン・フィノフ氏 メイヨークリニックスポーツ医療センター 医療部門長

メイヨークリニックは全米でも最先端の私立の医療機関。このメイヨークリニックが地域資源であるプロスポーツチームと連携して、トップアスリートへの医療とトレーニングのサービスを提供しているだけでなく、一般の地域の



アマチュアアスリート向けヘルスケアプログラムを通じノウハウ等を還元している。

◆パネルディスカッション：モデレーター 妙中 義之氏 国立循環器病研究センター客員研究員

パネルディスカッションでは、多様性の集積、異分野産業の融合、事業化の加速をテーマに議論がすすめられた。スピア氏からは、techUK では、都市部で実証を重ねることで地域住民に技術の発展の恩恵を感じてもらえることや、社会課題も分けて考えるのではなく、必ず共通項が出てくることが挙げられた。フィノフ氏からは、メイヨークリニックでは、医療従事者が新たな医療技術等の研究開発を行った際に、インセンティブを受けられる仕組みや起業を支援するインキュベーションセンターが併設されていることが紹介された。メルボルンのコマタス氏からは、オーストラリアや欧米では、起業家人材と投資のシステムがうまく循環して挙げられが成立しているが、日本は文化的な背景もあり状況が異なる。もっと企業内の研究者が表に出て来るような仕組みをつくってはどうかという示唆があった。尾崎氏からは、イノベーションのプロセスも大切だが、その過程が見えているということが重要で、それによって投資家や様々な人材・企業が新たに集積していくとのコメントがあった。



第 2 部

◆パネルディスカッション

パネリスト：寺田 喜信氏 江崎グリコ株式会社 健康科学研究所マネージャー
宮本 功氏 一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ 代表理事
中谷 日出氏 日本放送協会解説委員
妙中 義之氏 国立循環器病センター客員研究員

モデレーター：奥田 充一氏 京都造形芸術大学プロダクトデザイン学科非常勤講師

第 1 部の議論を受け、実際に都心においてイノベーション創出を推進するためには、具体的にはどういった機能が必要かを議論した。以下概略；

- 日本、世界の課題でもある超高齢化に対応する社会をつくるべく、関西のライフサイエンスの強みを活かし、市場・現場のニーズを的確に捉えて事業化を促すためにも様々な価値が行き交う場をイノベーションを起こす拠点にしていくことが必要。
- セレッソ大阪はプロスポーツチームとして選手が試合をして、その観戦チケットを売るということだけでなく、トップアスリートのトレーニングのノウハウを活用し、スクールビジネスを運営している事例が宮本氏から紹介され、こうしてノウハウを事業化し、収益を得るビジネスに変えていくということが地域としても重要であることが挙げられた。
- テクノロジーとアートの融合によって新たな体験価値が創出されていることやアーカイブが情報発信機会の起点

になることが紹介され、うめきたにおいては、技術オリエンテッドではなく、芸術なども含め様々な価値が集まる場とする工夫が必要である

- オープンイノベーションは想定される結果を目指す研究の中で予想外のことが起こることが重要。そのためにも、分野をまたいだ企業や機関、人との連携が必要。また異なる文化も重要な要素となる。海外から優秀な人材が集まるための魅力の醸成が必要。
- 人々が集まるためにも、大阪・関西が未来都市の実験都市であるべき。生涯現役社会のあり方がここで実証されているとなると人々が集まってくる
- ディスカッションの内容は、グラフィックレコーディングの手法を用いて記録された。



以上